

# 富山県森林審議会総会資料

## 【審議事項】

- ・ 諮問書（写し） P 1
- ・ 庄川地域森林計画の変更計画（案）の概要 P 2

## 【報告事項】

- ・ 森林保全部会審議結果 P 3
- ・ 森づくり部会審議結果 P 6
- ・ 「富山県森林整備・林業再生基金」の概要 P16
- ・ 「富山県森林・林業振興計画」に基づく H21 施策の実施状況 P18
- ・ 「とやま竹資源ネットワーク」の概要 P27

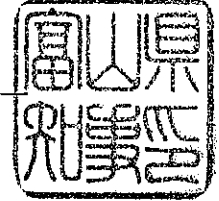


森 政 第 1275 号

平成 21 年 12 月 3 日

富 山 県 森 林 審 議 会 長 殿

富 山 県 知 事 石 井 隆



庄川地域森林計画の変更について（諮問）

このことについて、森林法第 6 条第 3 項の規定に基づき、貴審議会の意見を求め  
ます。

# 庄川地域森林計画の変更計画（案）の概要

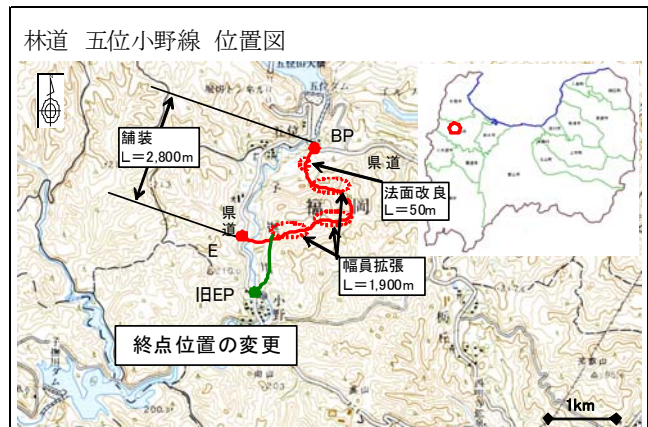
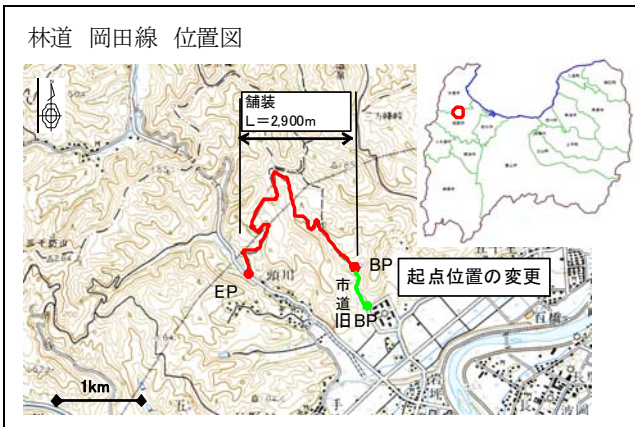
## 1 変更の理由

森林の有する多面的機能の発揮及び林業の持続的かつ健全な発展を図るため、緊急に必要とされる林道の種類別、箇所別の数量に変動が生じたため。

## 2 変更の内容

「第2章計画事項」「第3項計画事項」の「7」林道の開設その他の林産物の搬出に関する事項」の「(2)」開設又は拡張すべき林道の種類別箇所別の数量等

項目		変更後の計画量 H21.4.1～H31.3.31			変更前の計画量 H21.4.1～H31.3.31			備考
		種類	路線数	延長	種類	路線数	延長	
林道に関する事項		拡張	109	165.4	拡張	109	160.5	
高岡市	ワカヲ岡田	舗装	1箇所	2.9	舗装	1箇所	3.5	起 点 位 置 変 更
		改良 (局部)	1箇所	2.9	改良 (局部)	1箇所	3.5	
高岡市	ゴイ五位小野	舗装	1箇所	2.8	舗装	1箇所	3.1	終 点 位 置 変 更
		改良 (法面、幅員)	2箇所	2.0	改良 (法面)	1箇所	0.1	
南砺市	シシ獅子越	舗装	1箇所	4.5	-	-	-	追 加



- 【用語の解説】
- 1 拡張 舗装及び改良の総称
  - 2 改良 (局部)
    - ・ 現行の林道規定に定める勾配、曲線半径に修正
    - ・ 排水施設等の新設
  - 3 改良 (法面) 林道法面の改修
  - 4 改良 (幅員) 車道幅員の拡張
  - 5 B P 起点 (ビギニングポイント)
  - 6 E P 終点 (エンドポイント)

# 森林保全部会審議結果について

(平成 20 年 12 月 19 日～平成 21 年 12 月 21 日)

## 1 森林審議会に意見を求めたもの

### (1) 林地開発行為の許可 1 件

申請者	申請地	開発の目的	開発面積 (ha)	開催及び 答申年月日	許可年月日
夏野土木工業 株式会社	黒部市 吾妻野	土砂の採取	4.3418 (9.8196) (11.8105)	平成 21 年 2 月 19 日	平成 21 年 2 月 25 日

※開発面積欄 上段 : 実際に開発する森林面積  
中段 ( ) : 開発地に含まれる森林面積  
下段 ( ) : 開発地の面積

### (2) 林地開発行為の変更許可 2 件

申請者	申請地	開発の目的	開発面積 (ha)	変更理由	開催及び 答申年月日	許可年月日
アイエス総合開発 株式会社	富山市 山本	産業廃棄物 最終処分場	27.5345 (41.069) (48.974)	開発区域の 拡大	平成 21 年 2 月 19 日	平成 21 年 3 月 19 日
アールタチバナ 株式会社	富山市 八尾町平林	産業廃棄物 最終処分場	1.9194 (3.0170) (4.9896)	開発区域の 拡大	平成 21 年 8 月 5 日	平成 21 年 8 月 7 日

※開発面積欄 上段 : 実際に開発する森林面積  
中段 ( ) : 開発地に含まれる森林面積  
下段 ( ) : 開発地の面積

## 2 森林審議会諮問基準に該当しない規模のもの

### (1) 林地開発行為の許可 (開発地に含まれる森林が 5ha 未満) 3 件

申請者	申請地	開発の目的	開発面積 (ha)	許可年月日
株式会社 アースコーポレーション	射水市 小杉入会地	産業廃棄物 中間処理場	2.3710 (3.1754) (4.9917)	平成 21 年 5 月 20 日
たち建設 株式会社	砺波市 栃上	産業廃棄物 中間処理場	3.3860 (4.6352) (4.9831)	平成 21 年 6 月 15 日
富三建設 株式会社	富山市 八尾町西川倉	土砂の採取	3.6595 (4.8661) (4.9489)	平成 21 年 12 月 8 日

※開発面積欄 上段 : 実際に開発する森林面積  
中段 ( ) : 開発地に含まれる森林面積  
下段 ( ) : 開発地の面積

**(2) 林地開発行為の変更許可（開発地に含まれる森林が 5ha 未満の増） 1 件**

申請者	申請地	開発の目的	開発面積 (ha)	許可年月日	変更内容
株式会社 谷口	高岡市 西海老坂	土砂の採取	9.0743 (19.4937) (19.5156)	平成 21 年 12 月 9 日	期別計画に基づく 開発区域の拡大

※開発面積欄 上段 : 実際に開発する森林面積  
中段 ( ) : 開発地に含まれる森林面積  
下段 ( ) : 開発地の面積

**(3) 林地開発行為の軽微な変更（許可を要しないもの。(届出)） 19 件**

申請者	申請地	開発の目的	変更内容
池原建設 株式会社	朝日町 山崎	土砂の採取	期間延長 H21.6.28 まで → H24.6.27 まで
夏野土木 株式会社	黒部市 窪野	事業場の設置	施設配置変更
株式会社 古栢建設	魚津市 鹿熊	岩石採取	期間延長 H21.5.22 まで → H24.5.22 まで
株式会社 籠瀬運輸	朝日町 大平	岩石採取	期間延長 H21.9.9 まで → H24.9.9 まで
株式会社 千石開発	上市町 千石	岩石採取	期間延長 H21.9.30 まで → H24.9.30 まで
株式会社 イトウ	上市町 稲村	土砂・岩石採取	期間延長 H21.7.6 まで → H24.7.6 まで
富三建設 株式会社	富山市 婦中町下瀬	事業場の設置 資材置場	期間延長 H21.5.17 まで → H22.5.31 まで
神通土地開発 株式会社	富山市 婦中町上瀬	土砂の採取	災害復旧完了
神通土地開発 株式会社	富山市 婦中町上瀬	土砂の採取	期間延長 H21.10.31 まで → H24.10.31 まで
富山土石協業組合	富山市 婦中町上瀬	土砂の採取	事業譲渡 (旧：神通土地開発)
株式会社 東洋住設興業	富山市 八尾町深谷	産業廃棄物 中間処理場	期間延長 H21.9.30 まで → H22.9.30 まで
株式会社 野手組	小矢部市 五郎丸	土砂の採取	期間延長 H21.10.5 まで → H26.10.4 まで
株式会社 松本建材	小矢部市 小森谷	土砂の採取	期間延長 H21.3.30 まで → H26.3.30 まで
たち建設 株式会社	小矢部市 臼谷	産業廃棄物 最終処分場	期間延長 H21.3.31 まで → H24.6.30 まで
株式会社 ヒヨシ	高岡市 西海老坂	土砂の採取	事業譲渡 (旧：北陸廃材再開発公社)
株式会社 ヒヨシ	高岡市 西海老坂	土砂の採取	期間延長 H21.10.31 まで → H23.10.31 まで
株式会社 谷口	高岡市 西海老坂	土砂の採取	一部目的変更
株式会社 花と緑の丘氷見	氷見市 稲積	レジャー施設	期間延長 H21.3.20 まで → H21.4.20 まで
たち建設 株式会社	砺波市 井栗谷	土砂の採取	期間延長 H21.5.31 まで → H21.7.31 まで

#### (4) 林地開発行為の完了・廃止 5件

申請者	申請地	開発行為の目的	完了・廃止年月日
夏野土木工業 株式会社	黒部市 窪野	事業場の設置 (リサイクル施設)	(完了) 平成 21 年 1 月 28 日
株式会社 花と緑の丘氷見	氷見市 稲積	レジャー施設 (公園)	(完了) 平成 21 年 4 月 20 日
港商事 株式会社	魚津市 坪野	土砂の採取	(廃止) 平成 21 年 5 月 13 日
たち建設 株式会社	上市町 鶯谷	土砂の採取	(完了) 平成 21 年 6 月 14 日
たち建設 株式会社	砺波市 井栗谷	土砂の採取	(完了) 平成 21 年 7 月 31 日

### 3 県内で現在開発中の林地開発件数

#### 目的別件数

土石等の採取	45件 (82%)
事業場の設置	10件 (18%)
(産業廃棄物 最終処分場)	6件)
(産業廃棄物 中間処理場)	3件)
(その他の開発)	1件)

---

総件数 55件

## 森づくり部会審議結果について

1. 開催日 平成21年6月10日（水）

2. 現地視察

- (1) 里山再生整備事業実施箇所 富山市婦中町小長沢地内
- (2) みどりの森再生事業実施箇所 富山市婦中町高山地内

3. 事業費の概要と評価結果

(1) 富山県水と緑の森づくり基金積立金	351百万円	
内訳 水と緑の森づくり税相当額	350百万円	
寄附金・運用益	1百万円	
(2) 水と緑の森づくり事業費	327百万円	評価結果
I 水と緑の森づくり推進事業	1百万円	(別紙参照)
II 里山再生整備事業	155百万円	【達成】
III みどりの森再生事業	104百万円	【ほぼ達成】
IV とやまの森づくりサポートセンター活動推進事業	23百万円	【達成】
V とやまの森づくり総合情報システム事業	5百万円	【達成】
VI とやまの森づくり普及啓発推進事業	8百万円	【達成】
VII 県産材利用促進事業	21百万円	【達成】
VIII 県民による森づくり提案事業	9百万円	【達成】

4. 総合評価と主な意見

里山林の評価については地域の要望に応じて進められ、739ヘクタールと計画を大きく上回る実績を上げており評価できる。今後とも、地域ニーズ等を踏まえた事業の実施に努め、整備後の里山の維持管理が、地域の皆さんにより続けられるよう働きかけられたい。

混交林の整備については、里山林の整備等の事業を優先して実施した結果、計画をやや下回る実績となっている。今後は、計画どおり実施できるよう、森林所有者の方々の理解のもと事業に取り組まれたい。

森づくりを支える人づくりについては、森林ボランティア等による森づくりへの参加延人数が4年後の目標人数の6,000人を大きく超える10,033人の実績を上げており評価できる。森づくり活動への参加を支援する取組みを引き続き進められたい。

また、県民の森づくりに関する意識をより一層高めるためにも、木の個性、素材の良さを活かした利用の輪を広げるとともに、子供の頃から木を身近に使っていくことを通じて、人や木や森との関わりを考えられる豊かな心を育む「木育」の推進により、県産材の普及啓発に努められたい。

## I 水と緑の森づくり推進事業

県民全体で支えるとやまの森づくりを推進し、森づくりの計画、実行の改善のための評価を実施します。

### ○平成20年度事業の実績 実施額 1百万円

#### (1) 富山県水と緑の森づくり会議の開催

県民全体で支える森づくりを推進するため、森づくり全般について、県内の各界の代表者や有識者から幅広く意見を伺いました。

第1回 平成20年4月16日

議題

平成19年度事業実施状況の報告

平成20年度の取り組みについて

「県民による森づくり提案事業(県民実施事業)」の採択審査

第2回 平成20年11月21日

議題

平成19年度事業の評価結果の報告

平成20年度事業の実施状況の報告

平成21年度に向けた取り組み

- ・「県民による森づくり提案事業」(アイデア提案)の審査
- ・「とやまの竹資源利用・整備促進検討会」の概要の報告

#### (2) 富山県森林審議会森づくり部会の開催

水と緑の森づくり事業について、専門的・技術的立場から評価をいただきました。

平成20年6月10日

内容

平成19年度の事業評価の実施

平成20年度の事業概要の報告



平成20年度  
第1回 富山県水と緑の森づくり会議



森林審議会森づくり部会により19年度事業の評価  
をしていただきました。



## Ⅱ 里山再生整備事業 - ①

地域や生活に密着した里山を再生するため、里山の再生整備を県民協働で実施するほか、カシノナガキクイムシ被害木の除去や竹資源の利用や整備について検討します。

○平成20年度事業の実績 実施額 155百万円

### (1) 市町村による里山再生整備の実施

野生動物との棲み分けや景観の保全などを旨として、里山管理利用計画の策定や里山林整備、地域住民による整備活動の支援などを行ないました。

事業実施地区	84地区（14市町）
対象面積	739ha
事業主体	市町村

### (2) 里山利活用促進事業

里山の継続的な管理・利用をすすめるため、「里山再生整備」に取り組む地域住民による里山の利活用体験を行いました。

実施場所	上市町黒川地区
取組内容	県下各地の里山地区の住民などが参加し、広葉樹林の除伐、炭焼材料集め、キノコ植菌、山菜の植付け、炭焼きなど里山の活用方法を体験。 ・参加者数 5/18 271名、10/25 51名、11/8 74名
事業主体	県



第1回目（5/18）を「里山の集い」として開催し、石井知事はじめ地域住民の皆さんらが利活用体験に汗を流しました。（山菜苗の贈呈）



森林整備の実施により、明るくなった里山林へギョウジャニンニクなど山菜苗の植付けを体験しました。

## Ⅱ 里山再生整備事業 - ②

地域や生活に密着した里山を再生するため、里山の再生整備を県民協働で実施するほか、カシノナガキクイムシ被害木の除去や竹資源の利用や整備について検討します。

### (3) カシノナガキクイムシ被害木の除去の実施

カシノナガキクイムシの被害により立ち枯れ状態にある木の除去を行い、防災および景観の保全を図りました。

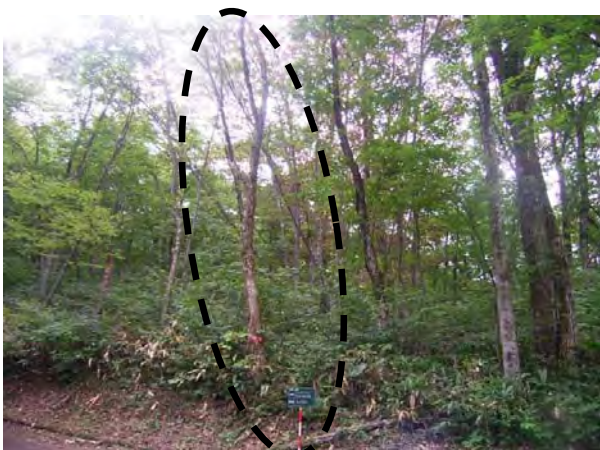
事業実施地区	46地区（14市町）
除去量	3,446m <sup>3</sup>
事業主体	市町村

### (4) 竹資源の利用・整備促進のための検討会やデータ整備の実施

拡大する竹林の実態把握をするとともに、竹資源の利用や竹林の整備を促進するための方策について検討しました。

取組内容	・「とやまの竹資源利用・整備促進検討会」(委員長:内村悦三)の開催。(8/4、10/24、3/3) 報告書を知事に手交(3/10) ・衛星データを利用した竹林分布図、台帳を作成。
------	--

事業主体	県
------	---



道路沿線にあるカシノナガキクイムシ経年被害木。放置しておくと、倒伏し通行者へ被害を与える恐れがある。(富山市亀谷地内)



枯損木を除去し、未然に危険を回避しました。

## ○平成20年度事業の評価

評価対象：里山林整備の実施面積

評価方法：計画面積に対する進捗状況の評価

平成23年度末累計計画整備面積 1,000ha

平成20年度末累計計画整備面積 400ha

県民の里山再生への関心や地域等からの要望が高く、平成20年度の実施面積は739ha（進捗率73.9%）と計画を大きく上回り「達成」と評価されました。

## Ⅲ みどりの森再生事業

人工林の公益的機能の向上を図るため、風雪被害林や過密人工林などを、スギと広葉樹の混交林へと誘導するための森林整備を実施するとともに、県産の広葉樹苗を県民の協力を得て育成します。

### ○平成20年度事業の実績 実施額 104百万円

#### (1) 風雪被害林・過密人工林の整理の実施

平成16年に県西部を中心に発生した風雪被害林や十分な手入れがなされず過密となった人工林を整理するとともに、整理地に広葉樹を植栽し、混交林化を促進しました。

整備面積 74.0ha (12市町)  
(風雪被害林整理 34.7ha、過密人工林整理 39.3ha)  
事業主体 県

平成20年度末累計整備面積 135.4ha (風雪被害林 76.8ha、過密人工林 58.6ha)

#### (2) 県産広葉樹苗の育成

県民や森林ボランティアの協力を得て、針広混交林への誘導などに必要な県産の広葉樹の苗を育成しています。

10月11日に砺波市頼成の森において、約270名の参加を得て、ドングリ拾いのイベント「みどりの里親の集い」を開催しました。参加者には「里親」となってドングリの苗を育てていただいています。

事業実施箇所 砺波市頼成 (県民公園 頼成の森)  
事業主体 県 (とやまの森づくりサポートセンターに委託)



10月11日、時折小雨の降る中、フォレストリーダーの引率のもと、頼成の森の遊歩道を散策しながらコナラなどのドングリを拾いました。



拾ってきたドングリを竹で作った鉢などに鉢植えしました。参加者は家に持ち帰り、ドングリの「里親」となって苗を育てていただきます。

### ○平成20年度事業の評価

評価対象：混交林整備の実施面積  
評価方法：整備目標に対する進捗状況の評価

平成23年度末累計計画整備面積 1,000ha  
平成20年度末累計計画整備面積 165ha

地域等からの要望の高い里山再生整備事業を優先して実施した結果、当事業の平成20年度末累計実施面積は135.4ha (進捗率13.5%) となりましたが、計画面積の80%以上の実績となったことから「ほぼ達成」と評価されました。

## Ⅳ とやまの森づくりサポートセンター活動推進事業

県民参加による森づくりを推進するため、森林ボランティア等を総合的・専門的に支援します。

### ○平成20年度事業の実績 実施額 23百万円

#### (1) 登録団体数等（平成21年3月31日現在）

一般登録 : 58団体 3,416人  
企業登録 : 24企業

#### (2) 県民参加による森づくり参加延べ人数

サポートセンター登録団体・個人	6,111人
企業の森づくり（サポートセンター登録企業）	2,707人
サポートセンター主催活動	613人
里山再生整備事業（地域外からの参加者数）	602人
合計	10,033人

#### (3) ボランティアの活動支援の実施

登録団体へのヘルメットや草刈り鎌、伐採木竹を処理するチップパーなど機材の貸出し、保険料等の支援、作業技術等の向上のための「森づくり塾」の開催 など

#### (4) 体験ボランティアやボランティアのネットワーク化支援の実施

森づくりボランティアの集いや交流会の開催、ボランティア交流サロンの管理 など

#### (5) PR活動の実施

登録団体が活動時に掲げる「のぼり旗」の配布や、企業の森づくりのPRパンフレットの配布、登録団体の活動をPRするパネルの展示 など



伐採木竹を処理するチップパーを貸し出しました。



「森づくり塾」では機械の操作実習や安全講習などを実施しました。



森林所有者との協定の締結など、ボランティア団体や企業の森づくり活動を積極的に支援しました。

### ○平成20年度事業の評価

評価対象：県内におけるボランティアの活動状況

評価方法：森づくり参加延べ人数の達成状況で評価

平成23年度末計画参加人数 6,000人

平成23年度末における計画人数6,000人に対し、平成20年度はそれを大きく上回る10,033人もの参加実績があったことから「達成」と評価されました。

## V とやまの森づくり総合情報システム事業

森づくりへの県民の理解を深め、県民参加を推進するため、とやまの森の現状や森づくり活動に関する情報を県民の皆さんに提供します。

### ○平成20年度事業の実績 実施額 5百万円

#### (1) 森林GISシステムの運用

昨年度整備した「森林GISシステム」により、森林情報の分析や里山再生整備事業などの実施区域を整理し、水と緑の森づくり事業の評価・公表に活用しています。

また、森林GISや衛星データを用い、拡大する竹林の現状を把握し、竹林の整備方針の検討に活用しました。

#### (2) とやまの森づくりホームページの公開

「とやまの森づくりホームページ」を公開し、森林GISシステムを用いて作成した、とやまの森に関する情報図や、水と緑の森づくり事業をリアルタイムに紹介しています。

・アクセス件数 10,971 件（平成21年3月31日現在）

URL <http://www.pref.toyama.jp/sections/1603/moridukuri/index.html>

竹林の分布：富山市呉羽（寺町）地区

とやまの森づくりホームページ



昭和50年の分布



平成20年の分布（約2.0倍に拡大）



水と緑の森づくり事業の実施状況などについての情報発信を行っています。

### ○平成20年度事業の評価

評価対象：森林GISデータの整備状況とその活用状況

評価方法：森づくり事業の評価・改善に向け、県民への情報提供に、森林GISデータをどのように活用したかを評価

- ・「森林GISシステム」により、森づくり事業地を地形図や航空写真上に表示し、森づくり事業の評価・改善に向けた基礎資料作成に活用しました。
- ・森林GISシステムを用いて作成した森づくり情報図等、水と緑の森づくり事業に関する情報を紹介する「とやまの森づくりホームページ」を公開し、広く県民へ情報提供を行いました。

以上のことから「達成」と評価されました。

## Ⅵ とやまの森づくり普及啓発推進事業

森づくりへの県民の理解を深め、県民参加を推進するため、出前講座や森林教室を開催します。

### ○平成20年度事業の実績 実施額 8百万円

#### (1) 「森の寺子屋」の開催

児童・生徒をはじめ、広く一般県民の森づくりに関する理解を深めるために、出前講座や森林教室を「森の寺子屋」として開催しました。

開催回数	91回	内訳	〔 出前講座 33回 (参加人数 1,750人) 〕
			〔 森林教室 58回 (参加人数 4,425人) 〕

#### (2) フォレストリーダーのスキルアップ

「森の寺子屋」の指導者となるフォレストリーダーのスキルアップを図るための研修会を実施しました。

スキルアップ研修の開催 2回 (第1回 平成20年7月7日、第2回 平成21年3月15日)  
(参考) フォレストリーダー数 112名 (H14認定52名; うち活動中50名、H19認定62名)

#### (3) 「とやま森の教本」の作成

「森の寺子屋」等において活用する本県独自の副読本を作成しました。これを用いて学校教育と連携した森林環境教育を進めます。

「とやま森の教本」作成 16,000部 (平成21年3月県内全小中学校、図書館、児童館等に配布)



「森の寺子屋」では、小学校などからの要請を受け、フォレストリーダーが出向いて講義などを行っていました。



富山県独自の副読本「とやま森の教本」を作成しました。各所に配布するとともに、「森の寺子屋」でフォレストリーダーが解説を実施する際の教材として使用します。

### ○平成20年度事業の評価

評価対象：「森の寺子屋」の開催状況  
評価方法：「森の寺子屋」実施状況で評価

「森の寺子屋」については、計画50回に対し実績91回と森づくりに関する理解を一層深めることができました。

以上のとおり計画を上回り、「達成」と評価されました。

## Ⅶ 県産材利用促進事業

とやまの森づくりにつながる県産材利用への理解を深めるため、県産材を使った木製品の設置や公共施設の木質化を進めます。

### ○平成20年度事業の実績 実施額 21百万円

#### (1) 県産材くつろ木事業

県産スギで製作したベンチを公共施設等に設置しました。

- ・ 公共施設 71基（55箇所）、 公共交通機関 9基（6箇所）
- ・ 企業協賛による設置 14基（8施設）

#### (2) 森の玉手箱プレゼント事業

事業所内保育所や児童数の多い幼稚園、保育園に県産材積木を追加配布しました。

- ・ 配布施設数 356施設
- 一万ピースの県産材積木を製作し、県内の各種イベント等へ貸し出しを開始しました。
- ・ 貸出実績 8件

#### (3) 県産材こどもの城づくり事業

園児のデザインによる木製遊具を親子の協力により製作・設置するとともに、親子による森の見学会を開催しました。

- ・ 実施施設数 1施設（砺波市立高波幼稚園）

#### (4) 森に親しむ学び舎づくり事業

小・中学校の学童・生徒用机天板を県産材天板に置換えました。

- ・ 実施学校数 3校（魚津市立大町小学校・道下小学校 立山町立雄山中学校）

#### (5) 木の香るまちづくり事業

公共施設の内装の木質化に支援をしました。

- ・ 実施施設数 5施設（立山町立あおぞら保育園 堀川南保育園 かたかご幼稚園  
小矢部市立津沢小学校 高岡市西明寺パークゴルフ場）



県内の各種イベント等へ貸し出しを行っています。  
(県・市町村・民間企業等の団体で利用可能)



子どものデザインにもとづき木製遊具を幼稚園に設置しました。

### ○平成20年度事業の評価

評価対象 木製品設置施設等での県産材の評価

評価方法 施設管理者等（先生、生徒含む）のアンケートにより評価

各事業を実施した施設管理者や施設利用者等に対してアンケート調査を行った結果、おおむね良好な意見が多く、県産材の良さをPRできたと判断されることから、「達成」と評価されました。

## Ⅷ 県民による森づくり提案事業

県民参加の森づくりを進めるため、県民の皆さんが自ら企画・立案し、実施する森づくり事業への支援を行ないます。

また、水と緑の森づくり税を活用した事業のアイデアを募集し、事業への反映を検討します。

### ○平成20年度事業の実績 実施額 9百万円

#### (1) 県民実施事業への支援

県内で活動する団体やグループ等から、自ら企画・立案し、実施する森づくり事業を募集し、富山県水と緑の森づくり会議で採択し、支援を行ないました。

・応募件数23件 採択件数22件 実施件数20件

#### (2) アイデア提案の募集

県民から、水と緑の森づくり税を活用した県が行なう事業のアイデアを募集し、富山県水と緑の森づくり会議で審査し、平成21年度事業などへの反映を検討しました。

・応募件数 10件 うち1件につき、H21年度事業に反映  
(特別支援学校用机・椅子の開発)



カシノナガキクイムシの被害にあった地域の里山を整備し、地域住民とともに伐採木を利用したシイタケの植菌に取り組みされました。  
(雄神地区森林振興会)



親子で地域の里山林の整備に取り組み、親子の絆、地域の森との絆を深められました。  
(氷見市立十三中学校育友会)

### ○平成20年度事業の評価

評価対象：県民実施事業の実行状況

評価方法：提案事業を総合的に評価

平成20年度に新規に実施した団体は、実施20団体中12団体と半数以上を占め、延べ参加人数も3,577名となった。多様な実施主体により県では実施できないようなきめ細かい事業を実施され、竹林や広葉樹林の整備、木材や竹材の利用を通して、森づくりへの理解が醸成されました。

また、アイデア提案により県民意見を事業に反映することもできました。

以上のことから「達成」と評価されました。



# 富山県森林整備・林業再生基金の設置について

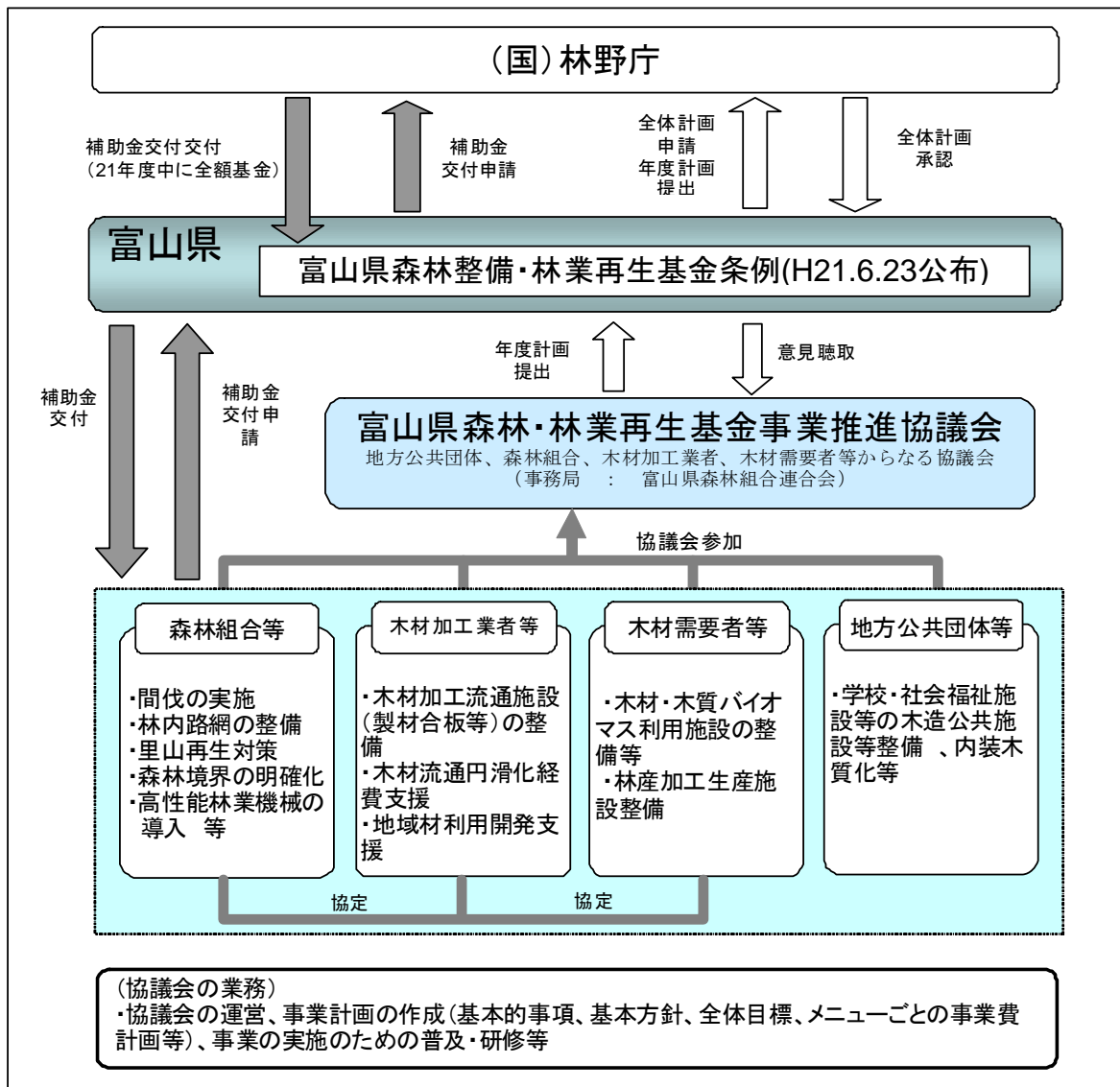
## 1 経緯

緊急経済対策として、国1次補正により、間伐及び路網整備、伐採から搬出・利用の一貫した取組により間伐材を活用する事業が新設される。

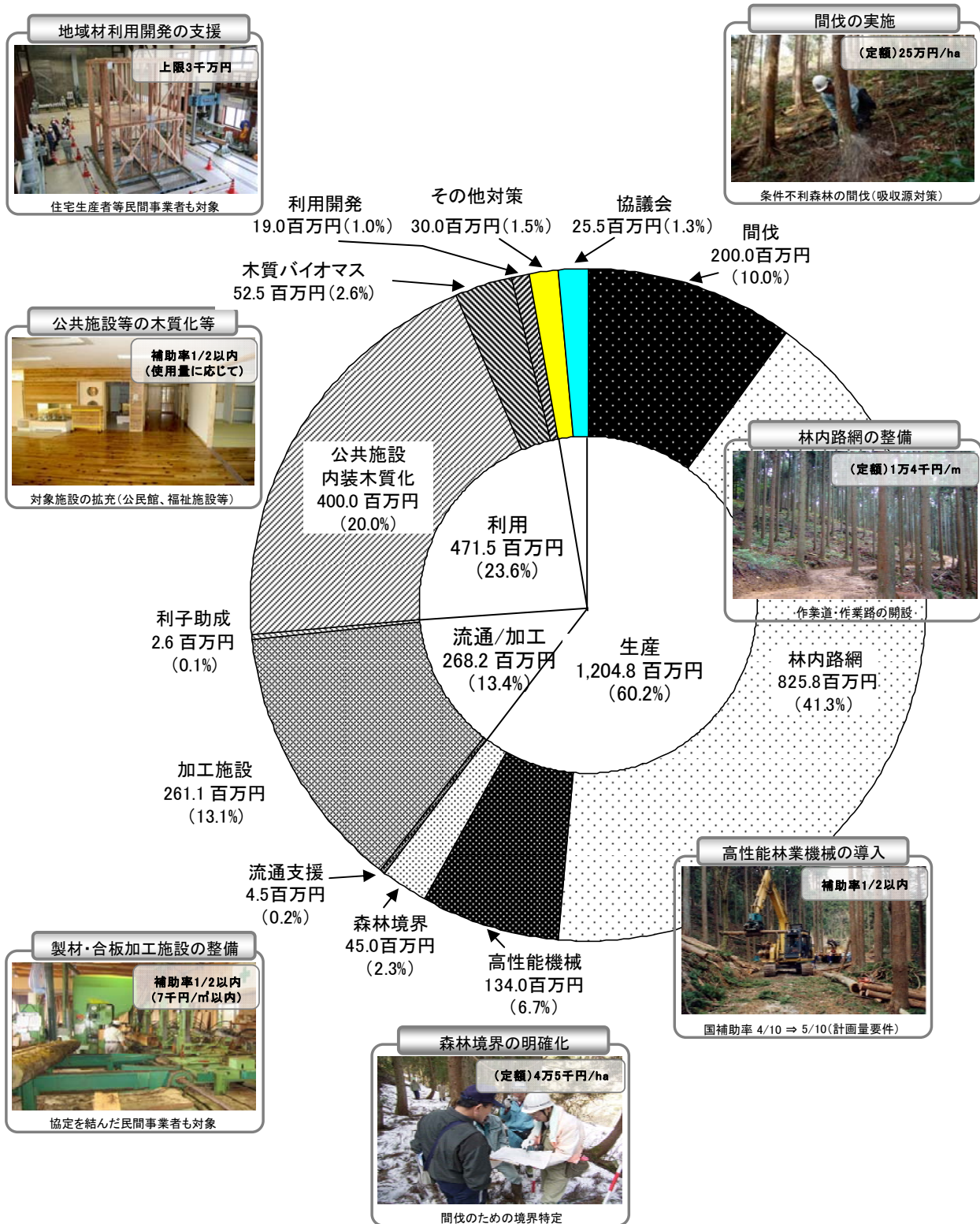
予算総額 1,238億円 事業期間 H21～23年度（3年間）  
 (仕組み) 都道府県に基金を造成（H21で全額）  
 都道府県に協議会を設置し地域のニーズを反映する  
 事業実施主体は協議会の構成員

県では、「富山県森林整備・林業再生基金（基金総額20億円）」を創設し、平成20年3月に策定した「富山県森林・林業振興計画」の加速化を図ることとしている。

## 2 スキーム



### 3 事業計画内訳(総額 20 億円)



(参考)

平成21年度森林政策課当初予算額(上記基金類似事業)

- 生産 701 百万円 (造林事業 470、県単独森林整備事業 165、林業構造改善事業 66)
- 流通加工 10 百万円 (地域材振興事業 10)
- 利用 69 百万円 (県産材利用促進事業 38、木材技術開発研究 31)

# 富山県森林・林業振興計画に基づく平成21年度施策の実施状況

## 1 県民参加による多様な森づくりの推進

「森を活かす」—県民参加による「里山林」と「混交林」の整備—

(1) 水と緑の森づくり税を活用した里山の再生整備と混交林の整備など

- ・ 「里山再生整備事業」による里山林整備を121地区1,074haで実施。
- ・ 「かぐや姫の里の集い」などの里山の利活用体験活動を氷見市上田で開催。
- ・ 「みどりの森再生事業」による森林整備を133haで実施。
- ・ 「みどりの里親の集い」による県民参加の植樹活動を南砺市法林寺で開催。

(2) 「森の寺子屋」による森林環境教育の推進など

- ・ 「森の寺子屋」を75回実施予定。
- ・ 指導者（フォレストリーダー）のスキルアップ研修実施予定。



「木を使う」—県民による県産材の有効活用の促進—

(1) 水と緑の森づくり税を活用した県産材の利用促進など

- ・ 「県産材利用促進事業」により、県産材積木のイベントへの貸出、木製遊具の設置や、児童機の県産材天板への置き換え、公共施設等への県産材ベンチの設置や内装木質化への支援などを実施。
- ・ 「木育」推進のため県産材遊具のデザイン募集を実施、試作品を県内児童館等に設置予定。

(2) 木質バイオマスの利用促進など

- ・ 木材研究所において、間伐材を利用した高カロリー燃料開発の研究を実施。民間企業と連携して実用化に向けた実証試験実施予定



「人を育てる」—森林ボランティア活動への支援—

(1) 「とやまの森づくりサポートセンター」による森林ボランティア活動への支援

- ・ 機材の貸し出しや、森づくり塾の実施、ボランティア交流会の開催など森林ボランティア活動や企業の森づくり活動を総合的・専門的に支援。

(2) 「とやまの森づくり総合情報システム」による県民への森づくり情報の提供

- ・ 「とやまの森づくりホームページ」を公開し、水と緑の森づくり事業の実施状況を紹介。



## 2 魅力ある林業の構築

### 「森を活かす」—持続可能な林業経営の推進—

#### (1) 施業集約化モデル団地の設定による木材生産の促進

- ・ 「施業集約化促進事業」による団地の取組みを 10 地区 319ha で実施。

#### (2) 作業路網整備の支援

- ・ 「路網整備地域連携モデル事業（建設業者とのモデル的な作業道整備の取組み）」により作業道 47.0km の整備を実施。
- ・ 「富山県森林整備・林業再生基金」を活用して、作業道 71.9km 整備予定。

#### (3) 高性能林業機械の整備支援

- ・ 「富山県森林整備・林業再生基金」を活用して、高性能林業機械（ハーベスタ等）3 台の整備に支援予定。



### 「木を使う」—県産材の新たな流通システムの構築—

#### 直送方式による流通の低コスト化の促進

- ・ 「富山県森林整備・林業再生基金」を推進するために設置した協議会の中で、具体的な協定の締結に向けた協議を開始。
- ・ 県産材の生産・加工から流通・消費に至る関係事業者の実情を調査した上で、木材利用の働きかけや、新たな販路の開拓を支援する予定。



### 「人を育てる」—とやまの林業を支える人材の育成—

#### 富山県林業カレッジ等の研修による魅力ある林業に期待される役割に応じた人材の育成

- ・ 施業集約化・団地化を企画・立案し地域の合意形成を加速化する人材（森づくりプロデューサー）を 5 名養成。
- ・ 低コスト生産を担う低コスト作業路開設技術者を 4 名養成、高性能林業機械の操作技術ステップアップ研修を開催。
- ・ 県外先進地の指導者を招いて、森林管理技術研修会を開催



※ 「元気な森再生事業（緊急雇用創出基金活用）」等により、169 名雇用

富山県森林・林業振興計画 進行管理表

区分	指標番号	指標名	単位	振興計画策定までの実績		
				H17	H18	H19
森を活かす	1	間伐実施面積（累計）	ha	15,379	(2,102) 17,481	(2,004) 19,485
	2	混交林の整備（H19～）	ha	—	—	(61) 61
	3	里山林の整備（H19～）	ha	—	—	(366) 366
	4	保安林の指定面積	ha	91,272	91,410	(72) 91,482
	5	富山県森林吸収量確保推進計画（H19～24）	ha	—	—	(2,412) 2,412
	6	施業集約化団地数（累計H20～）	箇所	—	—	—
	7	林道延長（累計）	km	1,655	(9) 1,664	(11) 1,675
	8	作業道延長（累計）	km	877	(24) 901	(25) 926
		林内路網延長（累計）	km	4,647	(33) 4,680	(36) 4,716
林内路網密度		m/ha	26.1	26.3	26.5	
林道密度		m/ha	8.7	8.7	8.7	
9	「森の寺子屋」の年間開催回数	回	—	—	46	
木を使う	10	県産材素材生産量（年次）	千m <sup>3</sup>	55	44	68
	11	乾燥材生産量の割合	%	10.6	12.8	16.0
	12	公共施設等に使用する木材に対する県産材の割合	%	70.6	69.9	86.5
人を育てる	13	林業従事者	人	(H16) 507	481	521
	14	林業に従事する際に必要となる資格保有率	%	—	—	30.9
	15	低コスト作業路開設技術者養成数	人	—	—	—
	16	森林組合数	組合	8	8	8
	17	分収造林契約変更済延人数	人・団体	—	—	(5) 5
	18	県民参加による森づくりの年間参加延人数	人	1,672	4,695	6,920
	19	研究の実用化件数（H19以降の累計）	件	—	—	(2) 2
山を守る	20	年間キノコ生産量	トン	3,357	3,484	3,511
	21	山地災害危険地区着手数	箇所	1,213	(10) 1,223	(15) 1,238
	22	なだれ危険箇所における整備箇所数	箇所	196	(3) 199	(2) 201
	23	海岸保安林整備延長	m	3,382	(173) 3,555	(140) 3,695

上段（ ）書きは当年度

振興計画の実績/計画					目標	
H20実績	H21計画	H21見込み	評価	H22計画	H23 (中間目標)	H27 (終期目標)
(1,708) 21,193	(1,811) 23,004	(2,340) 23,533	○	(2,000) 25,533	23,700	29,000
(74) 135	(133) 268	(133) 268	○	(200) 468	1,000	(H28) 2,000
(373) 739	(335) 1,074	(335) 1,074	○	(270) 1,344	1,000	(H28) 2,000
(133) 91,615	(98) 91,713	(100) 91,715	○	(100) 91,815	91,900	92,300
(2,116) 4,528	(2,170) 6,698	(2,699) 7,227	○	(2,200) 9,427	10,580	(H24) 12,700
(6) 6	(10) 16	(13) 19	○	(20) 39	35	75
(6) 1,681	(7) 1,688	(7) 1,688	○	(10) 1,698	1,720	1,763
(47) 973	(50) 1,023	(107) 1,080	◎	(53) 1,133	951	1,000
(53) 4,769	(57) 4,826	(114) 4,883	◎	(63) 4,946	4,783	4,873
26.8	27.1	27.5	◎	27.8	26.9	27.5
8.8	8.8	8.8	◎	8.9	8.9	9.1
91	75	75	○	75	60	80
50	60	60	○	70	75	100
28.7	19.0	29.0	◎	29.0	23	29
82.7	80.0	83.0	◎	80.0	76	80
509	507	510	◎	507	507	507
36.0	40.0	36.6	△	41.0	45.5	60.0
(6) 6	(5) 11	(4) 10	△	(5) 15	20	40
4	4	4	—	2	2	2
(89) 94	(1,000) 1,094	(111) 205	△	(2,000) 2,205	5,300	6,631
10,033	10,000	10,000	◎	10,000	6,000	7,000
(2) 4	(2) 6	(2) 6	○	(2) 8	10	18
3,405	3,500	3,500	○	3,520	3,525	3,525
(3) 1,241	(2) 1,243	(2) 1,243	○	(2) 1,245	1,246	1,266
0 201	(1) 202	(1) 202	○	(1) 203	202	206
(315) 4,010	(200) 4,210	(200) 4,210	○	(200) 4,410	4,455	5,175

評価欄：○年度計画達成見込み、◎目標値達成見込み、△年度計画未達成見込み

# 富山県森林・林業振興計画のポイント（抜粋）

## 【目 標】

### 魅力ある林業の構築と健全な森づくり

#### 【森林・林業の目指す姿】

##### ● 森を活かす

- ・富山県森づくりプランの「とやまの森づくり基本指針」に沿った森づくり（「生産林」「混交林」「里山林」「保全林」）が進んでいること。
- ・これからの森づくりが県民参加のもと実現していること。

##### ● 木を使う

- ・木材流通の合理化と低コスト化が進み、消費者ニーズに対応した県産材の製品が安定的に供給されるよう木材産業の体質強化が図られていること。
- ・県産材を使用した住宅や公共施設の建設等、地域全体で木材を利用することが進んでいること。
- ・森林や製材工場等から発生する木質バイオマスが活用され、環境と調和した循環型社会が構築されていること。

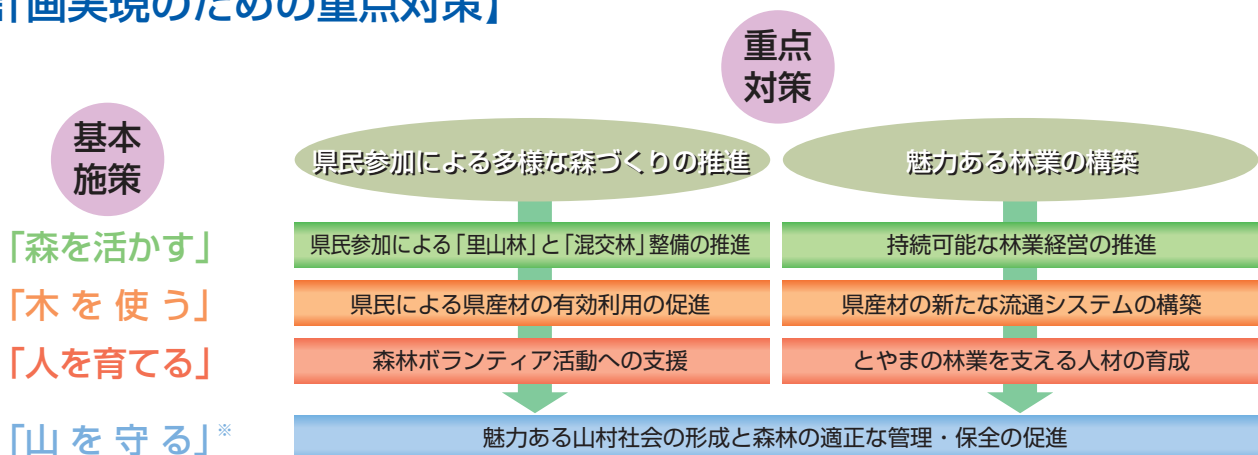
##### ● 人を育てる

- ・林業を担う人材が育ち、生き活きと働いていること。
- ・地域林業の担い手である森林組合や林業事業者の経営が安定していること。
- ・森林・林業の現状と大切さや役割について県民の理解が進み、県民参加による森づくりの輪が広がっていること。
- ・森林・林業に携わる人をはじめ県民が、有効に活用できる技術の開発や普及・指導が行われていること。

##### ● 山を守る

- ・山村地域の特性に応じ、森林、伝統文化等の地域資源を活かした個性豊かな地域づくりが行われていること。
- ・山地災害から県民の生命・財産が守られていること。

#### 【計画実現のための重点対策】



※ 「県民参加による多様な森づくりの推進」と「魅力ある林業の構築」のそれぞれの、「森を活かす」「木を使う」「人を育てる」重点対策を総合的に実施することで、「山を守る」重点対策となる。

## 【重点対策の概要】

### 1 県民参加による多様な森づくりの推進

#### 「森を活かす」－県民参加による「里山林」と「混交林」の整備－

- 「里山林」や「混交林」の整備については、県民参加による森づくりの観点から、水と緑の森づくり税を活用し、進めることとします。
  - 「里山林」は、「里山再生整備事業」により、地域住民等との協働により整備を進めます。
  - 「混交林」は、「みどりの森再生事業」により整備を進め、この混交林の整備に必要な県産広葉樹苗の育成や、その植栽の一部などについても、県民参加により進めることとします。
- 「森づくりを支える県民意識の醸成」については、水と緑の森づくり税を活用した「とやまの森づくり普及啓発推進事業」により、フォレストリーダーが指導する「森の寺子屋」（出前講座や森林教室）を開催します。



#### 「木を使う」－県民による県産材の有効利用の促進－

- とやまの森づくりにつながる県産材の有効利用を県民とともに進めるため、「県産材アドバイザー」の活動支援などの従来からの取組みに加え、県産材住宅への無利子融資制度など、県産材を利用した住宅建設の促進に取り組めます。
- 水と緑の森づくり税を活用し、公共施設等県民の目に触れる場所への県産材ベンチの設置や幼稚園・保育所等への県産材積木の配布、生徒・学童机天板の県産材への置換えや公共施設等の内装木質化への支援などにより、県民にとやまの木の良さを分かってもらえるよう、積極的なPRに努めます。
- 製材端材や林地残材などの木質バイオマスの重要性を県民にPRするとともに、そのエネルギー利用など効率的な利用に必要な技術開発の推進に努めます。



#### 「人を育てる」－森林ボランティア活動への支援－

- とやまの森づくりサポートセンターを通じたボランティア団体や企業による森づくり活動を支援します。
- 「とやまの森づくり総合情報システム」を活用し、とやまの森の現状や、水と緑の森づくり税を活用した森づくり事業の実施状況、森林ボランティアや企業による森づくり活動などの情報を県民にPRすることで、県民参加による森づくり活動の裾野拡大を進めます。





## 2 魅力ある林業の構築

### 「森を活かす」－持続可能な林業経営の推進－

- 間伐材等の県産材を利用することにより、森林整備に必要な資金を森林所有者に還元し、“植える（植栽）→育てる（保育）→収穫する（伐採）”という「循環する森づくり」を進めます。

- ① 施業集約化モデル団地の設定による木材生産の促進
- ② 高性能林業機械の活用を高めるための低コスト作業路網の整備や、高性能林業機械の整備支援



#### ● 施業集約化団地の条件

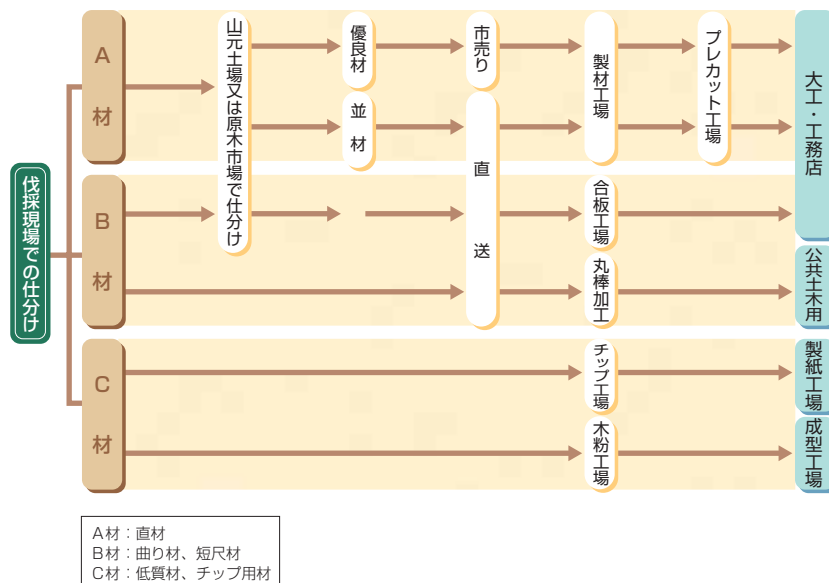
- 以下の条件を満し、人工林がまとまっている地域を「循環する森づくり」エリアとします。
  - ① 地位指数が18以上 林地の材積生産力を示すもので、40年生時の上層木の樹高が18m以上であること。地位では3程度。
  - ② 標高600m以下 土地分類図における人工林植栽限界以下
  - ③ 傾斜30度以下 積雪の移動が激しくない（雪崩の危険性が少ない）  
林地傾斜が33.7度を越えると、作業道等の開設コストが増大
- 森林組合等林業事業者がこのエリア内において森林情報の収集など行い、県の集約化の指針に沿って施業集約化団地を設定します。その団地に対しては、作業道等の基盤整備事業を始め各種事業に対し積極的に支援します。

### 「木を使う」－県産材の新たな流通システムの構築－

- 県産材の安定的供給体制の構築を進めるため、流通コストの低減と県産材の利用拡大を目指した体制づくりを進めます。
- 新たな流通システムの構築のため、出材者から製材工場関係者間で合意形成を図ります。



県産材部類別流通のイメージ

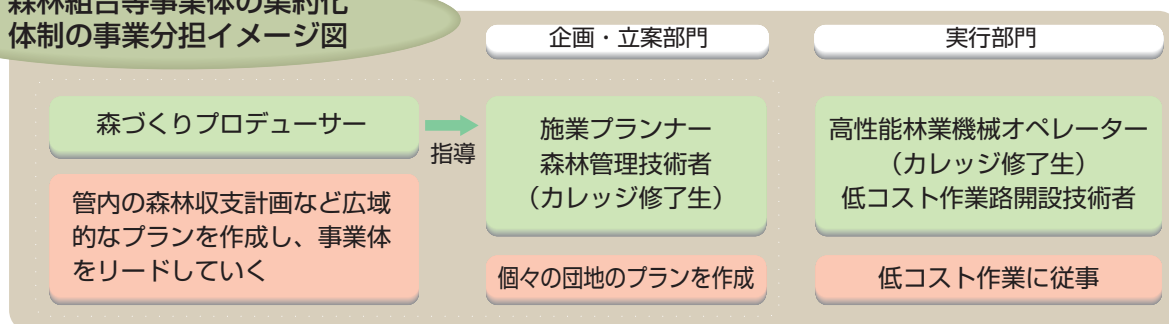


## 「人を育てる」－とやまの林業を支える人材の育成－

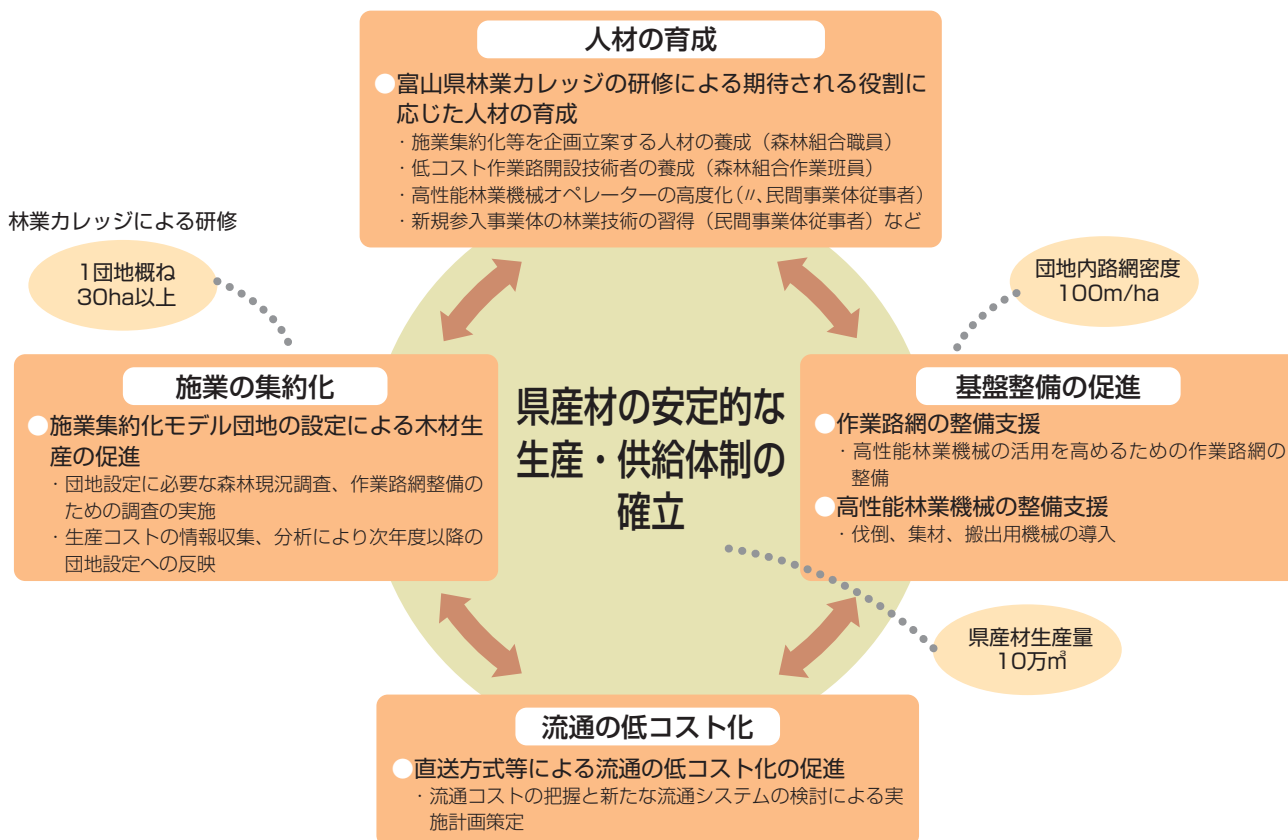
- 林業カレッジの研修を見直し、期待される役割に応じた人材の育成を図ります。
  - ① 路網計画（低コスト作業路を含む）や長伐期実施計画、さらには森林収支計画などの総合的な広域プランを立てることのできる人材（森づくりプロデューサー）の育成
  - ② 低コスト作業路の開設など、県産材の低コスト生産を担う技術者の育成
  - ③ 民間事業者に対する技術的指導



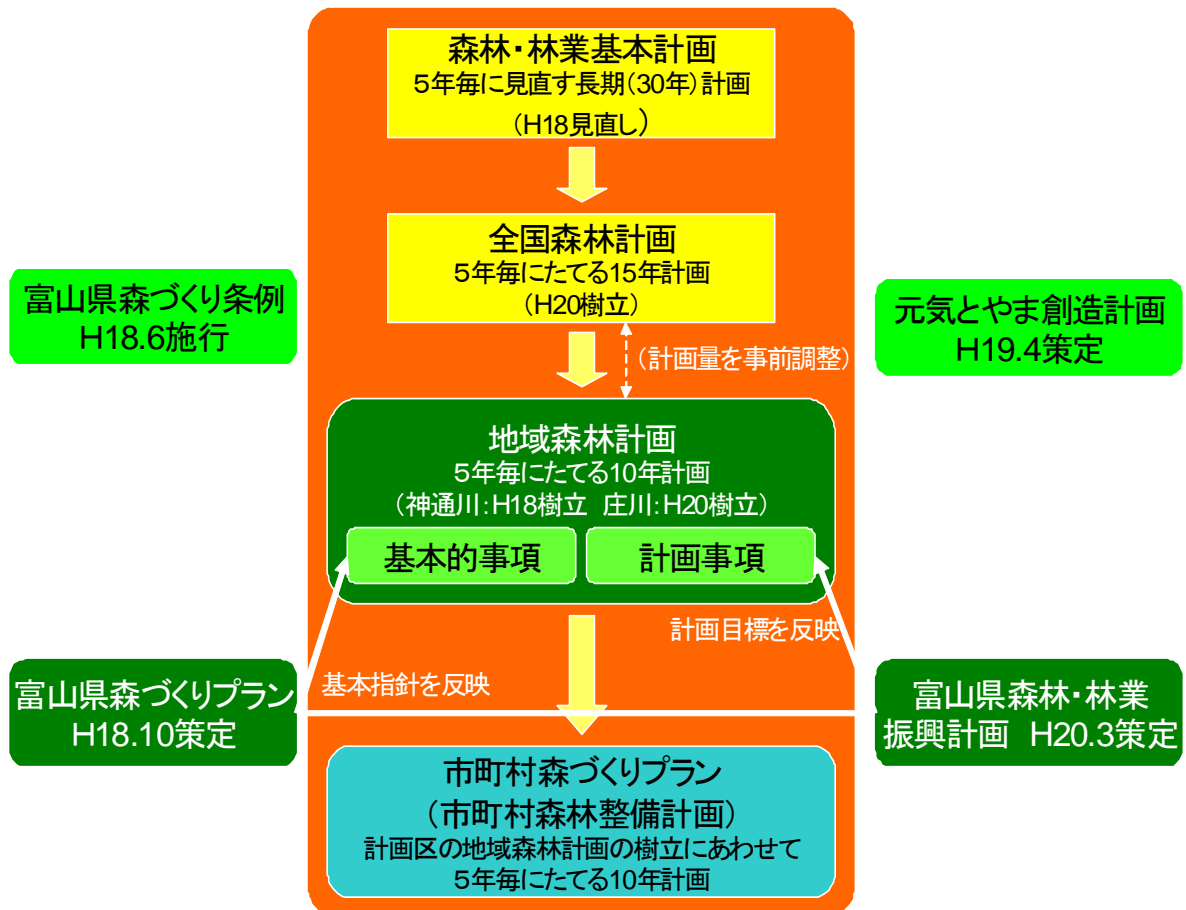
### 森林組合等事業者の集約化体制の事業分担イメージ図



## 魅力ある林業の構築に向けた重点対策の連携



# 森林・林業に関する計画の体系



## 「とやまの竹資源ネットワーク」の設置について

放置竹林の再生整備と拡大の防止を図るためには、竹資源の地域利用によって竹林を継続的に管理していくことが重要となっている。

このため、新たに竹林所有者や竹資源利用団体などからなる「とやまの竹資源ネットワーク」を結成し、その参加者を対象として、竹資源の利用に必要な技術交流や意見交換、生産者と利用者の結びつけなどを行い、竹資源の活用推進を目指している。

### 1 結成

- (1) 結成日 7月11日「とやまの竹資源ネットワーク」を結成
- (2) 登録数 竹林所有者や竹資源利用団体など51団体が登録
- (3) 事務局 県森林組合連合会（代表者は置かず事務局のみを設置）

### 2 講習会の開催

- (1) 第1回講習会 7/11 99名参加
  - ①特別講演 「富山の竹を活用する」 中央植物園 内村園長
  - ②情報提供 ヤマサン食品工業(株)、中越パルプ工業(株)
- (2) かぐや姫の里の集い 10/24 250名参加  
竹林の整理、玉伐り、竹材の収集、積込み、竹資源回収車出発式等

### 3 取り組み状況及び成果

- (1) 竹材の利用
  - ①竹資源回収車（かぐやの竹舟号）による竹材の回収を開始
    - ・9/21 小矢部市論田、10/24 氷見市上田地区、  
11/19 高岡市山川、氷見市小竹地区 計 約6t
    - ②竹材を中越パルプ工業(株)へ直接持ち込む取り組みが開始
      - ・県西部森林組合が、約74tを出荷
  - (2) タケノコの利用
    - ・来春の穂先タケノコの出荷、加工、販売に向けて関係者と調整を図るなど準備中

#### かぐやの竹舟号

- ・竹材をパルプ原料として利用している中越パルプ工業(株)が、地域貢献として無償で各地から竹材を回収する竹資源回収用のトラックの名称
- ・名称は、社内公募により決定
- ・各地域は、無償で中越パルプ工業(株)に竹材を提供。
- ・中越パルプ工業(株)は、無償でトラックを運行。
- ・中越パルプ工業(株)は、地域に謝礼としてノート等を進呈

